

障がい者問題について

阿南光高等学校

一年

坂井 琉妃

(敬称略)

みなさんは、障がい者問題という言葉を知っていますか？障がい者問題とは、職場で差別待遇を受けたり、店舗でのサービス等を拒否されたりすることです。

私は実際に障がい者問題を見た事があります。私が中学生のとき、ある子が一分間スピーチをしていると、言葉につまった様子で言葉が途切れ途切れになってしまいました。それでも話を続けていくと、スピーチを聞いている子がクスクスと忍び笑いをしているのです。スピーチをしている子は一生懸命に話しているのにも関わらず、最後まで友達と顔を見合わせて笑っていました。正直私には、その場で注意をする勇氣はありませんでした。

この経験を通じて、なぜ障がい者問題や差別が起きるのか疑問を持ちました。前述の差別が起きた原因は、「あの子、障がい者らしいよ。」と誰かがクラスで言った事でした。この言葉から、障がいをもっている人は私たちとは少し違う、という区切りをしていることが分かります。インターネットでも調べても、区切っている考え方がほとんどでした。なぜ同じ人間であるのに区切るのか、私には理由が分かりません。「あの子、障がい者だから気を遣ってあげよう」と思った時点で、それはもう差別です。障がい者だからと思った時に差別の区切りをしています。気を遣おうと優しくさで言ったつもりが、その気軽な言葉一つの発言で相手を傷つけてしまいます。私も、自分が話す言葉をよく確認して発言しようと、改めて思いました。言葉は簡単に発言できますが、知らない間に友達を傷つける事はたくさんあり、傷ついた心を元に戻すことはできません。

これまでの経験を通じて、障がい者問題や差別を起こさないためには、次の三点が大事だと気付きました。一つ目は、声掛けです。車椅子に乗っている人がいたら、「何かお手伝いできる事はありますか」と声掛けすれば、サポートしやすくなります。声を掛ける時は、意見を押しつけず、わかりやすく丁寧な言葉を使う事が大切だと思います。少しの声掛けやサポートで相手もうれしくなり場を和ます事が出来るはずですよ。二つ目は、譲り合いの気持ちを持つ事です。バスや汽車など座席数が限られている公共の乗り物において、譲り合いは障がい者の方だけでなく高齢者や妊婦さん

など全ての人に対してできます。自分で気がついたとき、すぐに行動に移したいです。三つ目は、手話です。手話は、話す事が苦手な人など多くの人に使ってもらえると思います。手話は相手の表情などを見ながら話せるので気持ち伝わりやすいと思います。今は小学生の教科書にも載っていて、妹が手話の練習をしているのを見て、大事だと思いました。以上の三点を私もできる限り実践していきたいです。

最後になりますが、改めて発言に気をつけようと思いました。そしてこれからは、周囲の友達で差別発言や差別につながるような発言をしていたら、すぐに注意してあげて下さい。私も注意したいです。これからもよりよい生活を送っていくために頑張っていきたいです。